

令和5年度 地域福祉活動支援事業 ホームページ用報告書

神奈川県社協ホームページに掲載しますので、助成事業の概要を簡潔に記入してください。

※必要事項を記入または☑ 1ページ以内に収まるよう作成

団体名	ケア現場の想いを繋ぐ会		
団体の属性	<input type="checkbox"/> セルフヘルプグループ・当事者等		<input checked="" type="checkbox"/> ボランティアグループ等
	<input type="checkbox"/> 市町村社協やそれを構成員とする実行委員会等		
助成区分	<input checked="" type="checkbox"/> 一般助成	<input type="checkbox"/> 協働モデル助成	協働モデル助成 本会提示テーマ
助成事業名	神奈川発！ハイブリッド型ケアラーズカフェの開催		
事業の目的	介護を行う家族の会やケアラーズカフェが増えてきたが、「認知症や医療の必要性がある家族を自宅で介護しているため自由に外出できない」、「遠方に住んでいて開催地まで出向けない」というケアラーは多い。さまざまな環境にいる人が参加しやすい形式にするため、対面型とWeb会議システムを活用したハイブリッド型ケアラーズカフェを開催した。		
事業概要	<p>日時：2023年11月26日 第1部14時～15時、第2部15時15分～17時 会場：THEPOINT 横浜</p> <p>●参加者が会場に集まる対面型と、web会議システム（ZOOM）を活用したハイブリッド型の開催。対面参加者16名、オンライン参加者11名、後日Web配信視聴者13名、計40名。</p> <p>・第1部 じぶん介護プロジェクト 「自分の力を地域、社会で活かすために」 ゲスト：割田修平さん、節子さん 横浜市港北区で地域交流サロン「どりにむ」（介護予防・生活支援サービス事業）を運営する割田ご夫婦に、「どりにむ」立ち上げの経緯から現在の取り組み等、おふたりのストーリーを中心にお話いただき、参加者自身が社会、地域で「自分の力」をいかすことを考える機会となることをねらいとした。</p> <p>・第2部 ケアラーズカフェ 「ケアをするときに大切にしていること」 アドバイザー：ウエルビー 青木正人さん ・介護をしていた方、現在ご家族の介護に携わっている方、障害者の家族、地域で居場所づくりに取り組まれる方、医師、介護職、生活支援員、障害当事者、行政関係者、マスコミ関係者など多様な立場の参加者が集い、交流を行った。</p> <p>●2022年7月に神奈川県在住のメンバーにより発足した会であるため、本イベントの開催はとくに神奈川県内の関係機関や団体などに知って頂く機会となるよう、周知活動に力を入れた。具体的には横浜市市民協働推進センターへの告知（同センターの職員も第2部に参加）、第1部の講師が運営する「どりにむ」がある港北区社会福祉協議会、港北区区民活動支援センター、地域ケアプラザにチラシの掲示を依頼するほか、自宅の一部を開放してケアラーのための交流の場を設けている「住み開き」の実践者を訪問しイベントの協力を求めた。さらに、神奈川県内にある介護家族の会やヤングケアラーの支援団体にもチラシを送り、イベントの告知を行った。そのほかネット上でもSNSを活用したPRを積極的に展開した。</p> <p>さらに、イオンリテールが運営するケアラーのための情報サイト「MYSCUE（マイスキュー）」などでもイベントの告知が掲載されるなど、県外在住者にも団体の取り組みやケアラーズカフェについて広く知ってもらう機会となった。</p>		
成果や課題	<p>イベントではオンラインも併用したことで、愛知県や長野県、上海などからの参加があった。一方、会場参加者のなかには車椅子ユーザーもあり、車椅子利用者が使えるトイレを備えた会場を探すのに難儀した。思いがけず会場選びの段階から「多様性」を考えさせられた。第2部のケアラーズカフェではすべての参加者が発言できるよう、参加者の人数を制限し、「ケアをするときに大切にしていること」というテーマを設けるなどの工夫を行ったため多様な立場の参加者が各々の体験談をふまえた意見交換ができた。専門職の間でその必要性が唱えられている「多職種連携」を市民レベルで行うことができた。チラシの配布活動中に「もう少し早く伝えてほしかった」との声もありスケジュール調整とスタッフの確保が課題となった。</p>		
今後の展望	<p>第1部は講演方式、第2部は交流会形式という展開で「参加者が選択できるプログラム」が好評だったため、今後もより参加しやすい企画や形式を模索しイベントを展開する。対象者を限定する、具立的な事例をもとに意見交換を行うことも検討している。また本イベントをきっかけに他団体との交流の機会をもつことができたため合同での企画などの案も挙がっている。助成事業後は会の魅力を伝えるためのパンフレット制作に着手し、イベントの写真を紹介するなど本事業での成果をいかず取り組みを展開している。</p>		
活動の様子が分かる画像 2枚程度添付			